

## OS-5 「ことば-コンピュータ-コミュニケーション」

オーガナイザ：阿部 明典（千葉大学）

オーガナイズドセッション「ことば-コンピュータ-コミュニケーション」は、例年と同じような主旨、つまり、コンピュータを介した言葉の問題について議論した。

今年度は、13件が集まり、枠の都合上、1件13分ほどの発表となってしまった。1件目の岩垣守彦さんの講演が大会の少し前に起こった地震の影響で欠席となり、少し時間の余裕はできたが、やはり短いかもしれないという印象であった。これは、システム的な問題で仕方ないが、議論は活潑に行われたと思われる。

また例年、延長気味なので、時間を置かず、2件目以降を前にずらしたせいで、時間割が発表のものとは異なってしまう、目当ての講演を聞くことができなかつたともいわれたが…仕方がないかなあ…という感じであった。

今年度の発表リストを以下に示す。

- 岩垣守彦（フリー）：感情喚起の論理構造を求めて6……感情を喚起する仕組みと実際（欠席）
- 小田淳一（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）：二言語併用者における語彙レベルの干渉現象……フランス在住コモロ移民一世の事例
- 小野淳平（岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科）、小方 孝（岩手県立大学ソフトウェア情報学部）：統合物語生成システムにおける概念選択／語彙表記選択およびその制御
- 福島宙輝（慶應義塾大学院政策・メディア研究科）：味覚表現における音象徴語の機能分析
- 森田 均（長崎県立大学国際情報学部情報メディア学科）：街のテキストとテキストの街
- 清野 舜（東北大学工学部情報知能システム総合学科）、渡邊研斗（東北大学大学院情報科学研究科システム情報学専攻）、乾健太郎（東北大学大学院情報科学研究科）：統計的言語モデルと単語列変形規則に基づく回文自動生成
- 谷田泰郎（シナジーマーケティング株式会社 R&D）、高椋琴美（シナジーマーケティング株式会社 R&D）、津田沙織（シナジーマーケティング株式会社 R&D）：いい加減な対話からの心のモデルの抽出……「聞く」と「見る」における言語理解の段階的実験
- 矢内浩文（茨城大学工学部メディア通信工学科）、越中彩貴（茨城大学工学部メディア通信工学科）、針谷友人（茨城大学大学院理工学研究科メディア通信工学専攻）：デタラメ語の気付きにくさを決める要因について
- 小方 孝（岩手県立大学ソフトウェア情報学部）、藤原朱里（岩手県立大学ソフトウェア情報学部）：「機能」を具体化する方式の一般化……統合物語生成システムにおける Propp-based ストーリー生成機構の拡張
- 佐原諒亮（関西学院大学大学院理工学研究科人間システム工学専攻）、金川絵子（関西学院大学大学院理工学研究科）、岡留 剛（関西学院大学理工学部）：作家の構文の類似性……木カーネルによる文書類似度
- 内田ゆず（北海学園大学工学部電子情報工学科）、高丸圭一（宇都宮共和大学シティライフ学部）、乙武北斗（福岡大学工学部電子情報工学科）、木村泰知（小樽商科大学商学部社会情報学科）：BCCWJ コアデータにおけるオノマトペ出現実態の分析……現代オノマトペ実例辞書アプリ構築に向けて
- 鈴木雅実（KDDI 研究所）：外国人のための日本語オノマトペ学習支援方法の一検討
- 秋元泰介（電気通信大学大学院情報理工学研究科）、小方 孝（岩手県立大学ソフトウェア情報学部）：階層的受容枠組みに基づく物語生成システムのインタフェースの構想

ことば工学研究会でも頻繁に議論されている「物語生成」や、「物語鑑賞」以外に、さまざまなテーマが集まったと思われる。

例えば、小田淳一さんの「語彙レベルの干渉現象」は、今回初めてのテーマである。実際の言語の解釈による現象の解析である。このような珍しい言語現象の分析はそれ自体で非常に価値があり、面白い研究である。小田さんは、これまでもさまざまな我々（筆者だけ？）に縁遠い言語の分析を行い発表をされてきた。工学的には、人工言語の生成などに使えるのかなと思いついて、聞いていた。森田 均さんの講演は、継続的に行われている研究で、街の中での言葉を集めたりする研究である。オントロジーと言ってしまえば簡単すぎるが、街を言葉で再構成できたり、さらには、言葉で新しい街を生成できると面白いかもしれないと感じた。実際、森田さんは、地域 ITS をモデル化するために移動・情報・エネルギーのインフラを複合化することは街のテキスト、テキストの街、双方の生成と関連するものであると述べており、非常に面白い研究である。回文自動生成は、かつて NTT で概念ベースの応用として行ったことがあるが、言語モデルは無視し、文字面で行っていた。今回の発表のものは、統計的言語モデルと単語列変形規則に基づいたもので、より、言語モデルに近づいていると思われる。これで、ネタとなるコーパスを選ぶと面白いものができるのではないかと思われた。それ以外に、オノマトペの研究、デタラメ語の研究など、ことば工学で拡充したい分野であり、これから、全国大会はもちろん、研究会でも発表

していただけるとうれしいと感じた。味覚表現に関しては、研究会でも常連となりつつある。実は、「知の身体性」のOSで発表のあった大塚裕子さんの発表もできれば、こっちで……といった感じであるが、個人的には、お酒も好きだし、これから進んでいく研究だと思っている。

まとめると、研究会とは違って、時間の制約のある中での議論であったが、非常に意義があり、楽しいセッションとなったと思っている。

〔阿部 明典 (千葉大学)〕